

1. 現在の建物は何時頃建てられたものか

明治22, 23年頃に建てられたといわれている。

2. 大日如来像はもともとここにあったのか。裏に書いてある文字の読み方と意味。

7丁目流山寺北→流山7丁目の浄円坊の前→8丁目1249→光明院、

奉造立庚申供養並念仏供養衆二世成就処 「流山の江戸時代を旅する」P240)

読み方、「ほうぞうりつ、こうしんくようならびにねんぶつくようしゅう、にせいじょうじゅしよ」

意味、庚申供養と念仏供養の講の人達が現世と来世の安楽を祈願するために造立した。

3. 一茶双樹の連句碑の次の句が知りたい。

連句碑は文化元年(1804年)秋元双樹自筆の「俳諧草稿」に記されたものです。

・「新鞍の旅めく様を雁の鳴く」(一茶) 「汐の来るたび松の絵を書」(双樹)

・「布晒す夏もづかづか皆になり」(双樹) 「窓迄あけてくれし小屋敷」(一茶)

4. 秋元家の系図で、四世平八はいわば初代秋元平八で、その子酒汀は二代秋元平八でこれを五代平八と呼ぶのはおかしい。

屋号で代々「三左衛門」、「平八」で呼ばれており、当主は何代目の三左衛門、平八か識別したと考えれば、5代目平八でもおかしくない。秋元は屋号であった。苗字が許されたのは慶応元年。

5. 「小林一茶ゆかりの寺」となっているが、どんなゆかりがあったのか。

句会などが本堂で開催されたと思われる。双樹の墓参りにも三度来ている。

6. タラヨウ(天然記念物)の葉の裏にお客さんに字を書かせても良いか。

ガイドは「ハガキ(葉書)の語源の木で裏に文字が書ける。」説明までで、市の記念物に指定された保護樹木であるから、ガイドとしては書くことを注意する立場である。

(タラヨウの木に括り付けた看板に文字書きを奨める文言あり)、看板を撤去するように働きかけが必要。

7. 秋元本家の墓は何代まであるのか。

初代~7代 光明院 8代~11代 東福寺 現在は12代(秋元智城)が当主

一茶双樹記念館

1. 双樹との関わりは、何がきっかけか。

葛飾派の句会が馬橋の大川油問屋で行われた時に初めて二人は出会ったのがきっかけといわれている。

大川立砂が引き合わせたと言う説もあるが、不明。

2. 一茶の支援者は各地にいたが何故双樹への訪問が多いのか。資金量が他の支援者に比べて多いからか。

それとも気が合ったからか。

双樹は一茶の俳句の才能を高く評価したので弟のように優遇したが、特に訪問回数が多いわけではない。

一茶が、双樹、立砂、月船、鶴老に宿泊したのは、生きるために積極的に支援者を求めていたと推測されるが、特に双樹と気が合ったと思われる。

3. 一茶と下総地方における他の支援者との密接具合はどうだったか。
- (1) 秋元双樹宅に51回、136泊 大川立砂宅に55回、96泊 古田月船宅に49回、289泊、鶴老(西林寺)に9回、96泊。 本当に双樹を最も敬愛していたのだろうか。
双樹が優遇してくれたので居心地が良かったものと思われる。
双樹の葬儀に参列し、双樹が亡くなった1か月後に柏原村に引っ越したことは事実である。
一茶は、生きるために各支援者と広く付き合いをしていたものと思われる。
- (2) 一茶が双樹のところに宿泊した回数と宿泊日数を、約50回、130泊と説明しているが、54回、150泊の説もある。統一したらどうか。
「流山のむかし」(P106) 記述の約50回、約130泊で統一したい。
ただ、51回、136泊と具体的に説明すると説得力があるので、こういう場合は断定しない言い方にする。例えば、「・・・という説もある」というように説明する。
4. 一茶は何故江戸時代に評価されなかったのか。明治になり正岡子規が評価したポイントは何か。
江戸では無名であったから。
一茶が生まれ故郷の柏原に定住した50歳以降から北信地方の俳諧番付で「前頭」となるなど評価されていた。子規が評価したポイントは、一茶の「滑稽、奇抜の中に雄健、真面目、慈愛のある作品」および「自然の事実を観察し「真実」を描くために一切の美化を否定した」という人もいる。
5. 一茶が近代の人に評価されたのはいつ頃か。
明治時代中期、正岡子規が評価したといわれている。また後期にはフランスの詩人にも評価されたともいわれる。
6. 現在の建物の原形はいつ頃建てられたものか。
双樹亭は、江戸時代安政4年(1857)に8代目三左衛門が建てた。入口の建物(秋元本家)は平成7年に明治時代の銅板画に基づいて建てたものである。
7. 双樹が居住していた時代の間取りや大きさは現状とどのように異なるか。一茶が逗留していた時代との比較。
5代目三左衛門の時代の建物の間取り等は不明
8. みりん工場が出来た時と同時に本宅が敷地内にできていたのか。
明治時代の銅版画では味噌工場の一角に本宅が描かれている。それ以上はわからない。
9. 「天晴」の字は秋元家が宮様に要望して書いてもらったもので、接待が満足だったので書いたのではない。
接待が良かったので満足して宮様が「天晴」と書いたと説明している人がいるが、これは間違いである。
揮毫とは、きぼうお願いして書いてもらうものである。
10. 赤松の説明はしないほうが良い。根拠が薄弱である。
「我植し、松も老いけり、秋の暮れ」の俳句説明時、「代々秋元家が大切に手入れをしてきた松で、一茶が植えた松かもしれない」くらいの話はして良い。積極的に説明することもない。
11. 一茶が柏原から赤松の苗をもってきて植えたと言っている人がいるが根拠は？
このような話は聞いたことがない

1. 由緒ある神社といわれているが、「郷社」という名付けのあった他に何があるのか。

正一位赤城大明神の宗源宣旨を受けている。

そうげんせんじ
宗源宣旨：神社に対して高い神格を示す称号や神階を授与、承認する文書

2. 何時から大しめ縄行事が始まったのか。大きさの変遷はあったのか。旧しめ縄の処分方法は？

口碑では明治時代にはやっていた？（「流山の江戸時代を旅する」 p 83）

- ・大正9年編纂の「流山町誌」にはおびしや行事は記載されているが、しめ縄行事はない。大しめ縄行事は昭和になってから始まったと推測される。
- ・旧しめ縄の処分方法は、のこぎりで1m位に切断して燃えるゴミとして処分されている。

3. 一茶の句碑に「越後節蔵に聞こえて・・・」とあるが、この蔵は酒造と思われる。他方、この時代にすでにみりんは製造されていたのか。また「越後節」とはどういう唄なのか。

- ・一茶が来た頃は、酒が製造されていた。
越後節は越後杜氏が歌っていた酒造り唄と考えられる。
5代目秋元三左衛門の富の源泉は酒造販売によるものである。
みりんは試醸の段階と思われる。

4. 葵の紋がある理由

葵の紋については説明をしない。聞かれたらわからないと言う。

5. 創建時期はいつか。

1620年の棟札があるが、流山村が江戸時代初期に成立したことから、江戸時代のはじめに創建されたと考えるのが一般的である。

6. 主祭神大己貴命と赤城神社との位置付け。

江戸時代の祭神は、赤城大明神。

明治新政府は皇孫神の天照大神を頂点とする国家神道を推進し、各神社に天皇家に繋がる神話上の神々を主祭神とするよう命じた。この際に赤城神社は主祭神を大己貴命として神社庁に届け出た。

明治41年に宮下にあった羽黒神社を合祀したので、祭神の豊受姫命も赤城神社の祭神となった。

7. 上州赤城山の笹と同じ笹と説明しているが裏付けは。

説明しない。

8. 参道の階段38段はいつ頃、どのように造られたものか。

積極的に説明する事柄ではない。

9. 大工棟梁植原藤七、彫物棟梁高松藤吉の技術的なこと流派等どのくらいの立場な人なのか。

質問者が調査して定例会で発表して欲しい。

10. 流山地名伝説は、赤城山の一角が崩れて流れ着いたという説明で統一したほうが良いのではないか。

伝説であり、説明者に任せる。

- 1 1. 流山地名伝説は何時頃から言われ始めたのか。「赤城祠碑」の文には文化11年（1814）のものがあるがもっと以前か。

江戸初期頃と考える。

- 1 2. 郷社赤城神社・香取神社に神職が駐在していないのはなぜか。

村の鎮守の社のほとんどは神職がいなかった。寺院と違い祠や社を建てれば神職がいなくても鎮守とすることができた。大きな社では神職を置くことができた。また別当寺があったところは社僧が法樂をあげた。市内の神社では赤城神社、茂侶神社、香取神社（北小屋、木）、愛宕神社などに別当寺があった。明治以降は別当寺が廃され、小さな神社にも神職がいたが、戦後はその役目がうすれ、多くの神社では無神職になった。

- 1 3. 赤城山は「あかぎやま」、「あかぎさん」呼び名を統一したほうが良い。

群馬県や国土地理院では「あかぎやま」としている。

群馬県では「あかぎやま」、流山では「あかぎさん」と呼ぶことに統一する。

- 1 4. 赤城山は建長年間に噴火したのだろうか。吾妻鏡の記述は山火事を意味する可能性が高いとする説がある。

1万4千年前に噴火した記録はあるが、それ以降噴火した記録がない

10項と同じ

- 1 5. 大しめ縄行事に参加する人数は、約300人と説明したり、約400人と説明している。会としてどちらか統一したほうが良いと思う。

社殿および境内清掃を含め約300人で統一する。

- 1 6. 出雲大社のしめ縄の長さ重量（出雲大社ホームページより）（参考）

拝殿：長さ 6.5m、重量1トン

神楽殿：長さ13.6m 重量5.2トン

- 1 7. 拝殿の板絵

・左から雷神、神官と読経する僧、梅の花と思われるが、確認する方法を知りたい。

- 1 8. 宮なぎの日の氏子担当はどちらか

・3班が大しめ縄作成で、1班が神社清掃と飾り縄作成

・3班が大しめ縄各1本、飾り縄各1本で、1班が神社清掃

1. 猿田彦大神立像とはどういう神様か。

日本神話に登場する神様で、天孫降臨の際に道案内をした神様である。江戸時代の民間信仰で、庚申信仰や道祖神などとも結びついた。

流山寺の猿田彦像は庚申塔である。因みに隣の大黒天像は甲子講の対象神である。

長流寺

1. 境内には1607年の馬頭観音が安置してあるが、お寺の創建が1607年で同年代である。

この馬頭観音は元々どこにあったのか

質問者が調査し、定例会で発表して欲しい。

2. 木ノ村亀吉墓石と同様な力石を使った墓石が全国に8か所あると聞いていますが、他はどこにありますか。

3. 観音堂は正面の建物ですか、それとも右側にある建物ですか

陸軍糧秣廠跡

1. B29による爆弾が落ちなかったのは干草稻荷（防火の神様）のお蔭と説明している人がいるが、実際は現在のイトーヨーカドー内に落ちて直径5m、深さ3mの穴があくという被害があった。

この干草稻荷は飼料となるワラが自然発火しないように防火の神様として祀っていた。戦時中はB29による爆弾が落ちて倉庫や事務所に被害があったが死者は出なかった。

爆弾が落ちなかったという説明は間違いである。

事実説明（説明は各個人による）

昭和20年2月24日午後8時30分頃、B29が東京から鹿島灘方面へ飛来し、1発目は流山寺前で爆発し、死亡者11名が出た。帝国清酒工場内、糧秣廠内、西平井と芝崎の田んぼに1発ずつ爆発した。

糧秣廠内では、着弾した空き地には、すり鉢型の直径5m、深さ3mの大穴があいた。周辺の倉庫・事務所等の屋根や壁は被害を受けた。軽傷者1名を出すのみであった

「ふるさと流山のあゆみ」P223、 「みりんの香る街・流山」P192～193